

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000155		
法人名	有限会社エイプラスアール		
事業所名	カサブランカグループホーム魚住		
所在地	明石市魚住町中尾221-1		
自己評価作成日	平成27年11月13日	評価結果市町村受理日	平成27年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-casablanca.co.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	平成27年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入って直ぐ感じて頂ける、明るい雰囲気の仕事のしつらえ作りに入居者も参加して頂いている。普段の生活は、居心地が良く安心して過ごして頂ける場所になるよう努めている。地域の傾聴ボランティアに週1回来て頂いています。定期的にフラダンス、トーンチャイム等ボランティアグループの方に来て頂いたり、茶道、生け花、アロマセラピーが出来る職員がいるので、レクリエーションに取り入れて楽しんでいただいている。避難訓練は地域の方にも参加して頂き、避難誘導のお手伝いをして頂き施設の一体となって実現できた。今後、地域交流として手作りおやつや喫茶の機会を持ち、地域の方への呼びかけを実践し、施設の様子を体験して頂こうと提案している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所理念と介護サービスの特徴を毎日全出勤者で唱和、月1回全員ミーティングで業務への反映状況等検証討議し日々のケアは理念に基づく支援が職員に浸透し展開されている。
- ・フロアは明るい雰囲気に包まれ、居心地の良い空間であり、利用者は日中とても穏やかに過ごされています。
- ・家族や友人の面会も多く、ボランティアによる活動や地域の方達との交流も活発に行われ、地域との繋がりをとても大切にしたり取り組みや利用者の以前の暮らしを尊重した支援など利用者本位のサービスを展開されています。
- ・運営推進会議の開催では地域関係者の協力による避難訓練と併用し今年度も実施されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	eiji	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護サービスの特徴を毎日唱和しておりいつでも確認できるようにフロアに提示している。日々ケアを行う時に確認する事ができ、入居者が気持ちよく生活して頂けるよう実践行っている。	事業所理念と介護サービスの特徴を玄関や居住フロアに掲示。毎日出勤職員全員で唱和し、業務遂行時確認できる配慮をしている。月1回の全員ミーティングで業務への反映状況等検証討議している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者が地域の方であり、家族様や自治会の方から情報を得る事ができるように日頃から交流を持ち、住吉神社の行事(初詣、祭り)に参加させて頂き、避難訓練には積極的に参加して頂けている	住吉神社のお祭りなど地域行事に合わせ年間行事計画に基づき積極的に参加し、交流を図っている。日常的に散歩や買い物に出かけ近隣に住む人々と触れ合う機会も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア(太極拳・傾聴・茶道・トーンチャイム)の方の来訪が常にあり、認知症の方と関わって頂けている。推進委員の時に意見交換を行い施設の利用方法をお答えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況・行事を行い、地域の自治会長・副会長・民生委員・経営者・事業所各管理者に委員会の案内を送り、レジメに基づき報告を行い、意見を頂きサービスの向上に努めている	年2回開催計画の8月開催は、地域代表の自治会長・副会長・民生委員、法人代表・事業所管理者等に事前送付のレジメで地域交流状況、支援困難課題、医療関連処置等報告・討議し、サービス質向上に努めている。	運営推進会議への家族の参加も重要です。家族参加に向けた取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	明石市介護サービス事業者連絡部会には必ず参加している。部会ではグループワークがあり、他施設の意見を聞く事ができて運営の参考にしてている。部会内で研修の開催があるので今後参加できるようにしたい。	明石市介護サービス事業者連絡部会に管理者は1回/3ヶ月参加し、グループワークで得た他事業所現況課題等社内で共有化し、運営に活かしている。部会内開催研修受講を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加して得た知識は、職員と共有している。自由で快適な生活が出来るように、支援方法を工夫し拘束のないケアを提供している。やむを得ない拘束のある時は、慎重に検討している。	研修で得た知識を伝達研修し、ヒヤリハット活動を実践している。身体拘束しないケアに注力し、玄関内鍵はフリーで玄関フロアに入ったら必ず職員が声掛けできる体制を取っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながるような発言やケアが見受けられた時は、未然に防ぐ事が出来るように良い方法を話し合い、入居者が快適に生活出来るようにしている。	虐待に繋がる発言やケア防止の工夫に利用者には敬語を使う話し合い研修を進め実践している。利用者特性を生かした活動を見守り支援し、入居者が快適に生活できる工夫を実践し虐待防止に繋げている。	虐待防止に向け全職員に実践状況確認のチェックリスト等を活用してみたいかがでしょうか。

自己	第三	eiji	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネは研修で得た知識を共有している。不明な事柄は市町村に質問、相談をし、助言をもらいながら支援を行っていると考えている	管理者・ケアマネは研修で得た知識を共有し、入居時に利用者・家族に説明しています。高齢者の人権にかかわる制度は、関連団体等からの情報入手による職員研修の推進が望まれる。	職員誰でもが当該関連に対応できるよう職員への研修実施が望まれます。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い、疑問点の質問を受けお答えしている。介護保険の理解が不明な点はケアマネより詳しく説明しており、費用面等の説明も行っているが、今後多い質問事項のQ&Aを作成してより解り易い説明にしたい。	契約、解約、改定等の際は、利用者への疑問解消に努めている。費用等の関心質問が増えつつあり、契約時以外でも動向変化が起きたときは、速やかな説明や質問事項のQ&A等の仕組みと対応を深めることが望まれる。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1ヶ月の様子を家族様に書面には外出した時などの写真を添付して郵送している。面会に来られた時に介護計画書の提示をし、要望や意見を聞き取り迅速に対応している。推進委員会議時地域の方と意見交換を行っている。	毎月定例で1ヶ月の外出状況等写真添付で郵送し、家族面会時に介護計画書による現況と要望・意見を聴き、運営推進会議で利用変更の申請代行等地域の課題等の意見交換を行っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングは本部から統括部長補佐が代表で参加され介護職員は積極的に意見や提案を出し合い、入居者が安心して生活できるように話し合い、決まった事は実践している。	法人統括部長補佐の出席で月1回の全員ミーティングを開催し、入居者が安心して生活できるテーマ目標により、看護師との連携密の工夫等意見・提案を出し合い検討し、実践に繋げている。	
		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働条件、介護技術の向上に努めているかを把握し、特に休み希望は常識の範囲内で出来るだけ添えるようにしている。努力は認め取得資格に応じて手当てが設定されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課表、自己評価を実践している。職員の介護技術、ケアの方法を把握し、社内研修の参加や介護福祉士受験の呼びかけを行って成果を上げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	明石市介護サービス事業所連絡会に参加し、同業者とのグループワークにて、他施設との意見交換を行い、得た情報を職員ミーティングの時に伝え、サービスの質を向上させている。		

自己	者	第三	eiji	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に向けてご本人が、困っている事を事前に本人・家族から聞き取りを行い、安心して施設利用できるよう努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に自宅・病院・高齢者賃貸住宅等、入居前自宅に直接訪問し面接を行った時に要望に添った支援を行い、その後も家族と連絡を取り合いながらの支援を行い継続利用して頂けている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の状態でどのような支援が必要か、福祉用具購入の手配の必要性も見極めて、ケアマネが家族と話し合った上で対応するよう努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者との会話、傾聴する中で知り得た情報に基づき、介護者はご本人の持っている知識や経験を生かせるよう話や気が合う入居者と同席になるよう配慮している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者との関係を良好に保てるよう支援している。定期的に家族・利用者と相談し、出来る範囲で関わっていただき、事業所と情報を共有するようにしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人からの電話を取り次ぎ、面会に来ていただけるよう管理者やケアマネから声かけを行っている。入所前の、馴染みの店で買い物などが出来るように支援している。	教え子さんが訪ねて来られたり、毎月の命日に墓参りを続けている利用者があり、一人ひとりの生活習慣を尊重し継続的な交流ができるように働きかけている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の交友関係や趣味を把握し、偏らないように席を配置して、楽しめるようにしている。また職員が寄り添い、何かあれば仲介し、関わりを増やすような対応を行っている。		

自己	者	第三	eiji	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者との関係を重視し、本人及び家族からの相談にいつでも乗れるように、関係を維持する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴や意思共有などを通じて、利用者及び家族の希望に添うようにしている。	日々の関わりの中で声を掛け、話を聴き意向の把握に努めている。本人にとってどのように暮らすのが最良なのか家族や関係者から情報を得るようにしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の基本情報やアセスメントの情報を基に、一人ひとりに適するサービス提供をしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者から直接聞いたり、サービス提供者から状況説明を受けるなどをし、状況把握している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者とその家族または、サービス提供関係者から状況や意見などを収集して、介護計画に反映して作成している。	介護計画に対し月1回のモニタリングを行い、食事場面での嚥下やベットよりの立ち上がり等介護の様子をみながら現場で話し合いを行い、結果は介護計画に反映と家族に報告している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者それぞれの日々の活動や、サービス提供者の感じたことを個別記録に残し、介護サービス向上に生かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス計画に拘束されることなく、個別に対応し、望まれる生活が出来るようにサービス提供している。		

自己	第三	eiji	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の地域とのつながりを支援するために、地域の名所を見学に行ったり、地域のボランティアグループに来てもらい、地域交流を図っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が安心して、健康的に過ごせるために、医療機関との関係を緊密にし、体調異変や緊急事態の際、迅速に対応できるようにしている。	かかりつけ医以外の専門医療が必要な場合は、家族が同行する。かかりつけ医との関係を緊密にし、異変や緊急事態に対応する仕組みは整備され、入院中も情報提供等フォローしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護業務を通じて把握した利用者の健康情報を常に看護職員に連絡し、適切な対応をしてもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時に、ご家族や関係者から詳しく情報を収集し、適切な対応措置を行っている。	利用者が入院した場合は、スムーズに退院支援が行えるように病院関係者と連携を密にしている。家族から回復状況等を情報交換しながら速やかな退院支援を行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者とその家族に、施設で出来る事及び、ターミナルケアについての説明をして、同意を得るようにしている。	利用者、家族の意向を踏まえ意思確認を行いながら安心して納得した最期を迎えられるような支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応に備えて、定期的に看護職員より応急措置の指導を受けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回利用者を交え、避難訓練を実施し、また消防関係者からも指導を受けている。	8月に消防署よりハシゴ車参加の避難訓練と講話を実施し、利用者や出勤者が訓練に参加した。災害時の備蓄は、未整備に近い状況。災害時備蓄に関し法人各事業所との協議、検討・推進が望まれる。	備蓄にどんなものがどの程度必要か等対応の仕組みを含め早急に検討していただきたい。

自己	者	第三	eiji	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者お一人おひとりを尊重し、個人に合わせた対応をしている。言葉使いや気持ち良い態度で接するように心がけている。	一人ひとりの人格を尊重し、以前の職業に合わせた言葉かけや糖尿の方への食事時対応や新聞に執着する方への対応等個々を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護サービスの提供において介護計画を作成する時、複数の選択肢を提案し、決定している。また日常生活の中でも、ご本人の意思決定を大切にその人の気持ちに添える支援を志している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活ペースに合わせて、その日の体調や気持ちに配慮し、希望を尊重した支援に努めている。食事は衛生管理の問題上食中毒等配慮した対応を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みや季節に合わせた身だしなみやおしゃれが出来、関心が保てるように働きかけている。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	充実した献立により、食べる事の関心や楽しみが増えるように盛り付けに気を使っている。週1回の手作り料理やおやつ作りを一緒に作り、楽しさを増やしている。	食べることの関心が増すように、目で楽しめる工夫として彩が楽しめる盛り付けを工夫したり、週1回手作り料理やおやつ作りを職員と一緒にし機会を増やしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のカロリーや栄養バランスは確保できている。水分摂取量は1日の摂取量を記録に残し、体調や希望に合わせて調整している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後口腔ケアの実施を行っている。口腔ケアの難しい利用者には、職員が介助を行っている。地域の歯科医と連携し、必要に応じて往診の依頼をしている。			

自己	者 第三	eiji	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、排泄の自立を支援している。一方で、排泄失敗による羞恥心に配慮し、安心してもらえるよう対応している。	排泄の自立支援は、チェック表で個々の排泄回数等を見ながら声掛けを、排泄失敗には羞恥心を配慮し、戸を閉めてあげる等安心していただける工夫と配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分摂取、筋力アップ体操等、運動不足解消の為、毎日声かけし、自然排便ができるよう取り組んでいる。必要に応じて医師・看護師指示により服薬でのコントロールも行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ずつゆっくりと入浴出来るよう取り組んでいる。その日の体調や衛生面も配慮し、入浴の希望があればいつでも入浴していただけるよう支援しています。	入浴は、基本は朝10時から、昼14時から希望に応じた時間に入浴できる。特浴は、夜寝る前や昼からでいずれも個々の要望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後しばらく臥床された後、その人に合わせた個別のレクリエーションも行っている。夜間、眠れない方の希望で医師の処方のもと、眠剤の服薬もしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつの服薬リストを作成し、どのような症状で服薬しているのかリストを参照している。症状に変化が見られた時は、医師に相談し、指示を仰ぎ、その都度全職員に周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅時の生活歴を把握し、ご本人の得意分野が発揮出来るように、一緒に制作物を作成したり、簡単な家事をお願いしている。天気の良い日は喫茶店などにも出かけている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数での外出の機会を設け、買い物や公園等に出かけたり、法事等での帰宅など個別に対応するようにしている。施設内でも、畑やお花に親しみながら散歩をして頂いています。	天候によるが四季に合わせ風呂のない日を年間計画で明示し、買い物や公園等の散歩、法事名等の支援や施設内の野菜づくりや花に親しめるよう支援を行っている。	

自己	者	第三	eiji	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル回避のため、基本的に事務所でお預かりしている。ただし、買い物などの外出時は必要な分を持参され、支払いやおつりを受け取ったりしていただいています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様と日頃から連絡を取り合ったり、面会時お話をさせて頂いたりする中で、電話可能な時間帯なども話題にし、可能な限り希望に添えられるように支援している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは床暖房と加湿器にて、過ごしやすい温度調整をしている。季節の壁画は、入居者と職員と一緒に協同作品を作成し、壁に飾っている	共用の空間は、明るく快適な環境となっている。刺激がない配慮がされ床暖房や加湿器等導入し、生活感や季節感を取り入れ居心地良く過ごせる工夫がされている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にいくつかのソファがあり、テレビ観賞・日光浴など一人または少人数でくつろげる、自宅にいるような生活空間を設けて、ゆっくりと過ごせるようにしている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の生活上の動線が移動しやすいように、タンス・ベッド等の配置を考え、本人の意見を尊重するようにしている。ベッドや寝具は貸出も出来るが、本人の好みの物も持ち込んでいただける。	居室は、本人の思い出や馴染みのある備品を活かし、TV等も持込み居心地良く過ごせる配慮が行われている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やけた相・テーブルに名札を付け、自分の場所が見つけやすい工夫をしている。一人ひとりの「出来ること」「わかること」を把握し、必要な介助が支援できるように、居室からフロアが見渡せる作りになっている。		